

「事業の成長」を支える「財務」とは

松田千恵子

株式会社 コーポレートディレクション
アソシエイトパートナー

者には周知のことだが、それが一般にも知られてきたのは最近のことである。数年前までは、「経理」と「財務」の区別も殆どついていなかった。財務と言えは、資金調達をやる部署、ということ。CFOは実際のところ「Chief Funding Officer」に過ぎなかつた。その後、様々な役割を拡大してきた。CFOであるが、ここにきてまた経理や資金調達に忙殺されるようになってきているのだろうか。そうではあるまい。

企業は自分の持ち物に眼を向ける。これを売ってあれを買えないか。そして、そもそも、持つべきか持たざるべきか。あるいは資金運用難からM&Aを考える場合も実は多い。どこでも同じ問題に行き着く。「株主に返すべきか、事業に投資すべきか」。同じ問題とは、事業の成長を支えるための、財務面から見たポर्टフォリオマネジメントである。

現在では、その逆が求められている。財務テクニクの狭い分野だけに財務部門が閉じこもるのではなく、自社の持っている事業、そして経営資源を十分理解した上でその効率性の運用を図り、不要な資源は外部へ出し、必要な資源を外部から調達する。広い視野から自社の経営を把握し、財務の位置付けを考えることが必要とされているのである。もし、現在忙しいCFOが、こうした取組みに邁進しているならば、その会社の将来はなかなか豊かなものであるかもしれない。

「CFOがどんなに忙しくなっている」あるセミナー主催団体のトップが「ほしていた。別に、集客が不況というわけではない。むしろ財務関連のセミナー等は、以前にも増して活況だが、経営陣向けセミナーに、参加したいのに忙しくて断念するCFOが、最近特に目立つのだと言う。景気が良くなってまた資金調達に追われているのだろうか。」確かにそれもあるだろう。だが、この話を聞きながら、「CFOが今、なぜ忙しいか」ともしてその会社の将来はもしかすると大きく変わるのではないだろうか、とふかしく思った。

CFO、即ち Chief Financial Officerの意味するCFOは本誌の読者には周知のことだが、それが一般にも知られてきたのは最近のことである。数年前までは、「経理」と「財務」の区別も殆どついていなかった。財務と言えは、資金調達をやる部署、ということ。CFOは実際のところ「Chief Funding Officer」に過ぎなかつた。その後、様々な役割を拡大してきた。CFOであるが、ここにきてまた経理や資金調達に忙殺されるようになってきているのだろうか。そうではあるまい。

企業は自分の持ち物に眼を向ける。これを売ってあれを買えないか。そして、そもそも、持つべきか持たざるべきか。あるいは資金運用難からM&Aを考える場合も実は多い。どこでも同じ問題に行き着く。「株主に返すべきか、事業に投資すべきか」。同じ問題とは、事業の成長を支えるための、財務面から見たポर्टフォリオマネジメントである。

どこが欠けても機能しないCFOの役割
(キャッシュフロー毎に考えてみると...)

